

2020年11月28日(土)
岡山県教育工学研究協議会
若手の先生方の授業力を高める教育セミナー
授業改善の楽しみ
井原市立出部小学校
校長 森川 孝一

授業の不易
子どもが**主体的**に学習する授業
今、求められている授業改善の視点
主体的、対話的で深い学びの視点による授業改善
どうすればよいのか・・・

子どもが**主体的でない**授業に
共通していることは？
教師の **しゃべりすぎ**
教師の 活動
子どもは 聞くだけ
受動的な授業

荀子の言葉
聞いたことは**忘**れる。
見たことは**覚**える。
やったことは**分**かる。

学びのピラミッド



質問と発問の違いは？

質問

子どもが教科書や教材・ノートを見ればわかるもの

発問

子どもの思考や認識、過去の経験をもとに新たな気づきや発見を促すもの

子どもが主体的でない授業に 共通していることは？

質問で授業を構成

質問の連発 ←しゃべりすぎ

子どもは教科書等の内容を探すだけ

受動的な学習

ICT機器を活用した授業の落とし穴

研ぎ澄まされた発問に向けて

発問は子どもの学びを左右する授業の要
研ぎ澄まされた発問とは・・・

- ・発問を言い換えない
- ・補助発問をしない
- ・一つの発問だけで子どもに響く発問

子どもの学びに火をつける

研ぎ澄まされた発問を 追究する過程が・・・

研ぎ澄まされた発問のためには、

★子どもの実態の正確な把握

★教材の深い理解

の力が育つ

➡ 教師の成長

研ぎ澄まされた発問に向けて

普段できる努力

自分の発問(授業)を録音する・・・スマートフォン等
そして、失敗に気づくことが大切!

失敗に気付けないままであれば、(当然のことですが)どれだけ授業を繰り返しても、授業力は向上していきません。自分の失敗に気づき、向き合い、流した涙の分だけ、教師は成長するのです。・・・何もかも身に付た状態で生まれてくる人など、この世には一人もいません。みんな人から教わったことや、失敗の経験から学んだことばかりです。

- 国士館大学教授 澤井 陽介 先生
- (前文部科学省初等中等教育局視学官)『授業の見方』より

なぜ教師はしゃべりすぎるのか?

こんなことはありませんか?

- 子どもの沈黙(無反応)に
必要以上に対応してしまう。

教師が発問をしてから、
子どもが発言するまでに間が少ない授業
沈黙を我慢できない!

子どもはいつ考えているのか?

人は考え込むと黙ってしまう。

「沈黙」している時=「熟考」している時
「沈黙」に我慢できないと・・・

▲ 発問の言い換え・・・

▲ 補助発問(質問)の連発・・・

◎ 「沈黙」を楽しむ!

子どもの言葉を待つとは

子どもの言葉が**結晶化**するには
時間がかかる。

「待つ」には**根気**が必要!
放送大学(教育相談)より
どれ位の時間、待てますか?



研ぎ澄まされた発問による授業をめざす

(授業力の向上:教師の成長) **発問**が変わる

(授業が変わり) **子どもの活動**が変わる

(学び・人間関係の向上) **子ども**が変わる

(よりよい人間関係) **学級**が変わる

授業改善の楽しみ!

授業で学級経営

授業後の子どものつぶやき

考え過ぎて疲れた!
難しかったけど、楽しかった!

何よりの授業改善の励み(楽しみ!)

まとめ (今日のポイント)

- 1 **しゃべりすぎ**の改善
- 2 **研ぎ澄まされた発問**の追究
- 3 **沈黙**を楽しむ

日々の授業改善を楽しみましょう!